

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3071500247		
法人名	グループホーム ゆりのき苑		
事業所名(ユニット名)	Aユニット		
所在地	和歌山県有田市千田403-1		
自己評価作成日	令和 5年12月21日	評価結果市町村受理日	令和6年4月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	令和6年2月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

苑内の雰囲気づくりに力を入れています。その結果入居者が自由に生き生きとされているように感じます。以前から書かしてもらっているのですが、施設せず冬は寒いので戸は閉めています、夏は戸も開いているところが自由な雰囲気づくりの一つとなっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ゆりのき苑の玄関の写真は一般の家のように、引き戸が開け放たれており、地域とのつながりを感じさせてくれる。外に自由に行き来できることは、利用者にとって非常に良い環境である。コロナ禍で規制がある中でも、利用者にとどのよう楽しんでもらえるか、また、地域とのつながりを継続できるか模索されている。医療面でも看護師が常駐しているので、利用者や家族が安心して生活できる環境となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で家庭的な雰囲気のもと生活を支援するを基本理念とし、ソーシャルインクルージョンとしての地域での事業所の役割を担えるよう努めている。	法人理念とは別に、地域密着を意識したグループホーム独自の理念をフロアのよく見える場所に掲示し、職員間で共有し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナが流行って地域との交流の機会は少なくなっていたが、地域の清掃活動や祭りなど再開に伴い交流も徐々に戻ってきている。	以前は、職場体験の実習受け入れや小学校の出前授業等、地域との交流機会が多かった。今後は、小規模開催の行事に参加する等、少しずつ以前のようなつながりのある機会を増やしていくことを検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩や外気浴中に行う地域の方とのコミュニケーションが地域の認知症高齢者に対するノーマライゼーションを広めることに貢献できている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議は開催されていない現状です。苑での取り組みやサービスの内容など報告し、今後のサービス向上に繋がれるよう開催していきたいと考えています。	コロナ禍のため開催できていない状況である。今後は以前のように、地区代表、民生委員、市職員、家族の方に参加してもらい、サービス向上につながる取り組みが行えるよう検討している。	運営推進会議再開の際は、以前のように、家族も輪番制で参加されることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括や介護保険窓口担当者と日常的に相談等を行うことにより、関係性を構築している。	市町村の担当者へ定期的に訪問し、空き情報やコロナ感染対応情報等、相談や意見交換を積極的に行い、協力体制を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会の開催や業務中に職員間の話の中にスピーチロックになっていないか話し合う機会が持っている。また、玄関の施錠は行わず、自由に出入りしてもらっている。	身体拘束適正化委員会を3か月に1回開催し、スピーチロックに関しては外部研修にも参加している。言葉かけについても職員間で常に話し合う体制がある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が順番に虐待に関する研修を受け研修記録を作成し回覧することで、認識が薄れるのを予防している。また業務中でも職員間で話し合い、意識を高め合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	今まで1階では権利擁護を利用した入居者はないが、権利擁護の研修を受講し回覧で全職員が理解できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては契約時のみならず、改定時や契約内容に関係する事項が発生した際に話し合い理解できているか疑問点を尋ねて納得されるよう図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際や書類の交付時に意見を聞いている。家族から意見が出しやすいように普段から何か困っていることや頼みたいことはないか声を掛けている。	家族から、「施設に入所して安心している」と喜ばれている。利用者からは、食べ物の要望が多く、巻きずしなど好みのお寿司を買ってくることもある。利用者や家族は、みんなで楽しめる夏祭りの再開を心待ちにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表を含め、法人内の管理者会議を定期的に行うことで各事業所が抱える課題や職員の要望を法人内で共有し質の向上を図っている。	定期的な職員会議だけでなく、日頃から互いに意見の述べやすい雰囲気づくりがなされている。細かなケアについても、意見を出し合うことで質の向上につながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則が閲覧できる場所に置かれていたり、職員のスキルアップの為に処遇改善加算を活用し職場環境改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に研修を受講する機会を設け、職員の資質向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同グループ内での交流はあるが、他社との交流の機会は研修内でグループワーク等で知り合った人との交流を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテークにあたり、家族だけでなく本人のこれまでの生活歴にも配慮しながら信頼関係の構築が図れるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所することにより家族との関係性が途切れてしまわないように、在宅からの悩みや習慣等に寄り添い支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の意向を確認し介護計画に盛り込むことで、ニーズに応えられるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的に支援行うだけでなく、本人の残存能力が活かされるように出来る事をしてもらっている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にも一方的な立場とならず共に支えることを念頭に、苑での日常生活を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人の面会を促したり、以前から利用していた美容院や歯医者者を継続して利用出来るよう働きかけている。	馴染みの美容院や理髪店に行くことも、コロナ禍で自粛期間があったが、現在は再開している。友人知人の来訪にも対応し、関係性が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係が良好に保てるように職員が間に入り支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後は連絡を取ることはないが、買い物や外出先で出会った時は声をかけ、近況を聞くようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全職員が日頃の記録にSOAP形式の記録を使用しており、心情を読み解くことでニーズの把握に努めている。	入居時には本人はもちろんの事、家族や関わりのあった方に状況を聞いて、意向の把握に努めている。記録SOAP(医療看護分野の記録方式)を活用し、思いのくみ取りに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族と本人からこれまでの生活の情報を収集するが、入居後も引き続き本人より情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日誌やSOAPによる記録、勤務中の職員間の意見交換で現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃記録しているSOAPによる記録やDr.の助言、家族の意向を盛り込んでモニタリングと介護計画の作成を行っている。	本人や家族の意見、また職員だけでなく、医師、常駐している看護師の意見を反映し、SOAP(医療看護分野の記録方式)も活用し現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに職員のみではなく、医療・家族・地域の社会資源を活用し柔軟に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染が5類に移行したことで、これまで続いていた散歩が再開され苑内だけでなく苑外での活動を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医との連携が継続されており、職員は本人の状態を正確に伝えられるよう連携に努めている。	本人や家族の希望を大切に、以前からのかかりつけ医の受診も可能となっている。施設は、医療が24時間受けられる体制である。必要があれば専門医の受診も職員が支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員に看護師がいることもあり、気軽に相談できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	急な入院に備え個々の情報提供書を作成し、入院後スムーズに医療が受けられるように準備している。また、早期の退院に向け情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、終末期を迎えられている利用者があります。医療・家族・職員などと変化していく本人の状態を受入れ、チームとして取り組んでいる。また、家族とはその都度意思確認を書面に残し、大切な家族の看取りを支援している。	契約時に看取りについての説明を行っている。重度化した際、家族の心理面にも配慮しながら、チームで具体的な話し合いを行い、終末期の支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の研修を受けて、周知している。又、緊急時の手順を明示してある。		
35	(13)	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	BCP作成するにあたり、色々な場所に出向き安全そうな場所を特定した。自治体の避難訓練に参加して、どのような入居者が生活しているのか周知してもらって協力を依頼している。	年二回の火災訓練を、夜間想定及び日中想定で行っている。うち一回は消防署の立ち合いもされている。水害の際はまずは垂直避難とし、高台を避難先としている。3日分の水、食料の備蓄を用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「自由」「尊厳」「歎び」が苑の基本理念である。一方的な立場におかず、人生の先輩として尊厳をもち、言葉かけ注意している。また、職員同士支援を振り替えるように努めている。	入社時には接遇マナーの研修も行き、日頃のケア、特に排泄介助では自立支援を基に対応し、カーテンの使用など、誇りやプライバシーに配慮した対応を行っている。職員同士声を掛け合い、より良い介助を目指している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の思いが反映され自己決定に繋がられるよう支援し、自己の思いが伝えにくい利用者には表情や行動、口の動きから察し支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの心身状況を理解し、利用者本位の支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	口腔ケアや髪の毛のセットは鏡の前で行い、身だしなみや服装など興味をもってもらうようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃からの会話の中で利用者の好物を聞き、メニューに取り入れている。また、配膳や下膳など自ら手伝ってくれている。	職員が、利用者の希望を聞きながらメニューを決める時もある。以前は、利用者と一緒に買い物にも行っていたが、現在は、職員のみで行っている。七草がゆを食したり、餅作りをしたり、時にはテラスで食事を楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事摂取量の記録を行い、後に摂取量が把握できるように努めている。栄養バランスは献立表を作り、同じメニューが続かないようにしている。水分摂取は10時やおやつ時にも摂取している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月に1回歯科衛生士に往診に来てもらい口腔内をチェックしてもらっている。食後の歯磨きやお茶の飲用を声掛けしている。また夜は洗浄剤に浸け、汚れを落としている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべく残存能力が活かせるよう支援しつつ、自尊心に配慮して適切なケアを選んで支援している。	排泄チェック表の活用や専門医の受診で、排せつの失敗やおむつの使用量が減らせるよう働きかけている。布パンツの利用を勧め、必要最低限の援助を行うことで、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の排泄リズムの把握に努め、排便がない日が続く方には基本的に薬に頼って排便促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴が好きな方や嫌いな方、入る順番を気にする方が居ますが、なるべく意向に沿うように支援している。	利用者の希望やタイミングに合わせて、夜間以外は対応できる体制を整えている。希望があれば入浴剤を使用したり、ゆず湯等季節を感じられる配慮も行っている。状況に応じて、職員二人体制での対応を行うこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度や湿度、眠前薬の有無、服薬時間等一人ひとりの生活リズムに合わせて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に服用している薬情書綴りを作成し、置いている。薬の変更時や利用者の状態についてDr.と話できるように目を通してしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり出来る事を手伝ってもらう事で役割をもってもらっている。また、おやつ作りや生け花、散歩等余暇の時間に気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや散歩で外出支援行っているが、時にはデイサービスの車を借りて(土日は休みなで)大人数で遠くに出かける事もある。	感染リスクがある為、近場の景色の良いところにドライブに出かけたり、人が少ない公園等に出かけ、季節の花々を楽しんだりしている。玄関にはベンチが配置され、行き交う人々との交流もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家人からお金を渡してもらい、必要と思う物品を購入している。コロナ禍後は自由に買い物に出かけられていないが、今後は以前の様に買い物に出かけられるようにしていきたいと考えています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や馴染の人からの電話や年賀状での交流がある。電話でのやり取りの中で和やかな表情が見受けられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースでは換気に努め、一人ひとりが居心地よく過ごせるよう配慮している。利用者が生ける季節の花が玄関や共有スペースに飾られている。行事を通しての飾りや季節感を演出している。	共用空間も一般の家のリビングと位置づけ、落ち着いて過ごせるよう配慮している。ベランダに出て日光浴をしたり、風を感じたり、四季を感じる自然の刺激が心地よく感じられるよう工夫されている。職員と一緒に掃除などできる利用者には、手伝っていただくこともある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者はソファや自席で思い思いの時間を過ごしている。また独りの時間が多い入居者には、職員が寄り添ったり、雰囲気作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスやソファ、仏壇など持ってもらっている。また、家族の写真や毎日の生活での写真など飾り、部屋の雰囲気作りに努めている。	馴染みの物が近くにあることで居心地よく暮らせるように、以前から使っていた家具を置いたり、写真を飾ったりしている。居室では本を読んだり、日記をつけたり、花を生けたり、利用者それぞれが居心地のよい過ごし方をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの心身状態に合わせて残存能力の維持に働きかけている。苑内自由に移動することができ、かつ安全面も考慮し、移動経路の環境整備に努めている。		